

1月給食だより

令和7年1月
小山市立間々田小学校

あけましておめでとうございます！

新年あけましておめでとうございます。今年度も、残すところあと3か月となりました。

引き続き、毎日の給食時間が待ち遠しくなるような、魅力ある給食作りに努めていきたいと思ひます。本年も、どうぞよろしくお願いいたひます。

今年巳(へび)年！

阪神・淡路大震災から30年

災害時の『食』を備えまじょう

1月17日「おむすびの日」

1995(平成7)年1月17日に、阪神・淡路大震災が発生しました。寒さ厳しい中、被災した多くの人たちを支えたのは、ボランティアによって届けられた炊き出しの「おむすび」です。震災発生から5年が過ぎた2000年「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」は、食料の重要性や、ボランティアの善意を忘れないために、この日を「おむすびの日」と定めました(※2018年8月31日に同協議会は解散し、この取り組みは、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構へ引き継がれています。)。阪神・淡路大震災の発生から今年で30年となります。災害発生直後は支援が届かないという事を前提に、一人ひとりが自分の命は自分で守ることを意識し、普段から備えをしっかりとっておくことが大切です。

★非常食・日常食品・持ち歩き用品の3つを備えておきましょう。水と熱源は必需品です。

そのまま食べられる非常食

白飯、肉、魚、大豆、シチュー、カレー、ビスケット、チョコレート

アルファ化米、缶詰、レトルト食品、菓子類など

ローリングストックで備える日常食品

米、乾めん、乾燥ワカメ、塩、お米、乾麺、乾物、日持ちのする野菜・果物、調味料など

外出時の持ち歩き用品

飲料水、チョコレート・あめなどの菓子

1人1日3リットル

カセットコンロとボンベがあれば、温かい料理を食べることができ、ます。あらかじめ、使用方を確認しておきましょう。

1月24日～30日は、全国学校給食週間です！

日本の学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町(現在：鶴岡市)の私立忠愛小学校で提供されたのが始まりとされています。その後、各地に広まったものの、戦争による食料不足で中断されてしまいました。

戦後、子どもたちの栄養不足を改善するため、昭和21年にアメリカの支援団体「LARA(アジア救済公認団体)」から、給食用物資の寄贈を受けて、翌年1月から学校給食が再開されることになりました。昭和21年12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」としました。昭和25年度からは、冬季休業と重ならない1月24日～30日までの1週間を「全国学校給食週間」とすることが定められました。

学校給食の移り変わりを見てみよう！

明治22年ごろの給食

お昼ごはんを持ってこれない子どもを対象に、無償で提供したのが始まりです。

おにぎり・しおざけ・つけもの

昭和25年ごろの給食

アメリカから寄贈された小麦粉を使って、パン・ミルク・おかずの完全給食が始まりました。

コッペパン・ミルク・カレーシチュー

昭和40年代ごろの給食

パンの種類が増え、めん類も提供されるようになりました。脱脂粉乳のミルクは、牛乳へと切り替わりました。

ミートスパゲッティ・牛乳・フレンチサラダ・プリン

昭和50年代ごろの給食

給食の主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯が正式に導入され、献立の内容も豊かになっていきました。

カレーライス・牛乳・塩もみ・バナナ

学校給食週間を通して、学校給食の意義や役割などをみなさん知ってもらい、学校給食についてあらためて考える機会にしてほしいと思ひます。

小山市では1月20日～24日を「小山市学校給食週間」としています。

今年のテーマは、「わ食の日をふりかえろう」です。また、「食育ピクトグラム」をアイコンにして、献立のテーマやメッセージをお知らせしていきます。